

環境大臣賞	受賞者名
	有限会社ハイプラ
	取組の実践場所 徳島県徳島市（本社工場）、阿波市（土成工場）
	受賞テーマ 廃プラ全量リサイクルで手元に返る製品を ～ 地域循環型社会の浸透と育成 ～
受賞者は1976年の設立以来50年にわたり、廃プラスチックのマテリアルリサイクルを専業としている。創業者は大学で応用化学を学び「プラスチックをゴミにしない」を理念に研究室から創業。廃プラスチックの自社便回収・選別・粉碎・再生ペレット製造・射出成形製品の製造・販売まで自社一貫で行い、受け入れる廃プラスチックは全量再生原料化する。バージン材を一切使用せず、集めた人・分けた人へ「手元に返る」製品を自社の再生材料のみで作り上げる全国でも極めて希少な企業である。 1) 手作業による繊細な「手センサー」選別で、常時16種類以上・100種類以上のグレードに分類した再生原料は、公的機関の検査で「バージン材と一致」と評価されるほどの高純度を誇る。必ず次につなげるリサイクルにより、取引先のISO・ESG・脱炭素戦略に貢献している。新規取引開始時には段階的指導により、分類する種類を一種類から多種多様な廃プラスチックへと拡大。コミュニケーションを大切に環境を整備し、排出段階から品質を確保する仕組みを構築。 2) 「せっかく分けてもどうなっているかわからない」という消費者の声に応え、分別して排出したプラスチックを製品に加工して手元に届ける「クローズドループ・リサイクル」の仕組みを構築。吉野川市をはじめとした自治体協定により、認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会（JCV）」との連携で、ペットボトルキャップ回収・ワクチン寄付活動を展開（2022年開始、累計1万人分超のワクチン寄付）。ペットボトル水平リサイクル協定のコーディネートも担っている。ボトルキャップからの製品は、ふるさと納税返礼品や企業ノベルティ品など多彩な社会実装を果たしている。 3) 1990年より学校・企業・地域への環境教育を継続し、近年は環境教育インストラクターとしてプラスチックに限らず教材プリントやチラシ(古紙)、衣類のリサイクル、食育と幅広く、全国の学校からその取り組み相談を受け付ける。特にマテリアルリサイクルで生まれる再生製品は、実際に手に取る体験を提供することで課題解決への深い理解を促している。 2024年よりESD活動推進拠点（Education for Sustainable Development＝持続可能な開発のための教育）認定を受け、毎月のビーチクリーン活動や徳島県海岸漂着物対策活動推進員委嘱など、地域資源循環の中核として機能する。 創業50年・従業員10名の小規模事業者である同社は、様々なステークホルダーの「困りごと」や「希望」に寄り添い、次の一步に繋がる橋渡しに努めながら、地方から未来へと続く循環経済を実装するモデルを体現している。	
ハイプラ 商品化プロセス 分けたプラが製品になって手元へ返る 「プラスチックをゴミにしない」－創業50年、廃プラ回収から製品まで自社一貫通貫	